

イオン八代店内に集いの場 ひなたぼっこ開所



▲くまモンも談笑に加わった内覧会

11月19日、イオン八代店内にやつしろふれあい交流センター「ひなたぼっこ」がオープンし、開所式が行われました。1階の南西角部分の60㎡を市社会福祉協議会がイオン九州から無償で借り受け、畳スペースやテーブル、椅子などを用意。平日の午前10時30分から午後4時まで誰でも無料で利用できる、高齢者や子育て世代などが気軽に集える場所としての活用が期待されています。また社協職員が常駐し、決まった曜日・時間に生活困窮相談や介護、高齢者に関する相談などを受け付けています。

県が推進する「地域の縁がわ」のひとつとして位置づけられ、開所式では、くまモンが永原辰秋副市長に「地域の縁がわ」登録プレートを贈りました。

泉町下岳の松田カシ子さんは「居心地が良いですね」と笑顔で話しました。

貴重な写真資料を市へ寄贈 麦島勝さんへ感謝状



▲寄贈した写真の一部を、懐かしそうに説明する麦島さん

八代市在住の写真家・麦島勝さんが、平成26年8月、自分で撮影した写真資料3122点を市に寄贈。昭和期の八代を中心とする県南地域の人や生活、風景を記録した写真で、作品としての価値はもとより、郷土の歴史・文化を語る上でもかけがえのない文化遺産です。

11月13日、中村市長が麦島さんに感謝状を贈りました。麦島さんは「繰り上げ繰り上げで学校を卒業して戦争へ行き、20歳前に自分は死ぬと思っていた。(生きて終戦を迎え)写真は、ふるさとへのお礼奉公と思って撮ってきた。できるだけ子どもや動物を入れるように心がけた。入ると写真に温かみが出る。子どもの服装などを見ると時代が分かりますね」と話しました。

写真資料は市立博物館で整理・調査作業を行い、順次、博物館のホームページで公開する予定です。

空間デザイン部門で最優秀賞 全国高专デザインコンペ



▲最優秀賞を受賞した生徒たち

11月8・9日、市総合体育館で「デザインコンペ2014 in やつしろ」が開催され、空間デザイン部門で最優秀賞を受賞した熊本高等専門学校八代キャンパス建築社会デザイン工学科の生徒4人や教授などが12月9日に市役所を訪れ、中村市長に受賞報告をしました。

「デザイン」は「全国高等専門学校デザインコンペティション」の略で、空間デザイン・構造デザイン・環境デザイン・3次元デジタル設計造形部門の4部門に分かれてアイデアと技術を競います。

空間デザイン部門のテーマは「地域でつくる、人とつくる」でした。今大会で八代キャンパスの生徒たちは、肥薩おれんじ鉄道の28駅を1つの空間としてとらえ、マルシェをつないでいこうと提案。また、駅周辺の人や自然、スポットなどの良さも取り上げ、魅力を伝えていく取り組みを発表しました。

すべての差別をなくす 人権子ども集会フェスティバル in やつしろ



▲日奈久中生徒によるミュージカル劇「ユタと不思議な仲間たち」

11月29日、市総合体育館で「人権子ども集会フェスティバル in やつしろ」が行われ、八代地域の小中学生や関係者など多くの人が参加しました。

これは差別のない人権のまちづくりを、目指し人権問題を身近に考える機会として、人権月間に合わせて開催されたものです。

ステージでは人権や差別をテーマに、各学校や団体による作文や劇の発表、歌や太鼓の披露がありました。部落差別をはじめすべての差別をなくす八代地域児童生徒実行委員会委員長の八代白百合高校2年の谷口藍子さんは「ひとりひとりが一つの仲間になっていけたら良いと思います」と話しました。

最後は参加者による人権パレードが中心市街地を中心に行われ、人権に関する思いやメッセージのアピールがありました。

八代妙見祭御夜



▲本町アーケードを流し踊る八代妙見紅道中

11月22日、「八代妙見祭御夜」が本町アーケード街とその周辺で開催されました。今年の目玉は伝統芸能フェスティバル。東陽町の「坂より上棒踊り」、鏡町の「芝口棒踊り」、泉町の「久連子古代踊り」が披露され、観客から大きな拍手が送られていました。御夜の名物となった「八代妙見紅道中」も流し踊りで祭り前夜を盛り上げました。

また、昨年から始まった獅龜馬会（しきばかい）の「武者んよかコンテスト」が市社会福祉協議会前特設会場で開催され、「勢子クイーン」「勢子メン」「勢子キッズ」「勢子チーム」が選ばれました。

妙見祭笠鉾組立見学ツアー



▲大切に載せられる「猩々」の飾り

笠鉾奉納町内で一斉に行われる妙見祭の笠鉾組み立てを、妙見祭案内方の説明を聞きながら見学して回る「妙見祭笠鉾組立見学ツアー」が11月16日に行われ、市内の38人が参加しました。これは長年にわたり継承されてきた技術とその価値を知り、妙見祭をより深く理解してもらうと市が企画したもので、今年で5回目です。笠鉾は釘を1本も使うことなく、また、各部分材を決められた場所にはめ込まないと完成できない仕組みです。各町内の組み手が200程の部材を一つ一つ確認しながら組み立てていく様子を、参加者は近くまで歩み寄って細部まで観察していました。

ちびっこ妙見祭



▲ちびっこ行列での子供花奴の披露

11月16日、ちびっこ妙見祭が本町1〜3丁目アーケードと厚生会館で行われ、子どもたちが祭りに登場する出し物の演舞を披露しました。子どもたちに興味を持ってもらい妙見祭への参加を促そうと八代妙見祭活性化協議会が毎年行っており、今年で5回目。子供獅子、子供花奴、木馬、子供飾馬などによる「ちびっこ行列」がアーケードを練り歩き、随所で大人顔負けの演舞を披露すると、観客から大きな拍手が送られました。

子供飾馬に参加した八千把小6年生の鬼塚流伎くんは「父に勧められて飾馬に参加しました。本番も参加します」と力強く語りました。

熊本県文化財保護大会



▲オープニングを飾った県指定重要無形民俗文化財・国選択無形民俗文化財の久連子古代踊

11月27日、鏡文化センターで熊本県文化財保護大会が行われ、県内の文化財保護委員や関係市町村職員など約400人が参加しました。これは文化財保護行政の推進と文化財愛護思想の普及・啓発を図ることを目的に県教育委員会が毎年開催しているもので、基調講演、事例報告、民俗芸能披露などが行われました。

基調講演では、文化庁文化財部伝統文化課芸能部門の吉田純子調査官が「無形民俗文化財を次世代へどう引き継ぐか」と題し、伝承芸能が復活した事例などを挙げながら講演。参加者は熱心に耳を傾けていました。

塩屋八幡宮大祭



▲多くの参拝者が訪れた境内

11月25日、八幡町の塩屋八幡宮で例大祭が行われました。神事に始まり、獅子舞や7町内の子供みこし、特設会場では奉納演芸大会が行われ、保育園児のソーラン節や秀岳館高校の雅太鼓の演奏が舞台に花を添えました。

夕方になると、境内は学校や仕事を終えた人などの参拝者であふれ、多くの人で賑わいました。

八代演能会



▲つるまる保育園児による連吟「高砂」

11月14日、厚生会館で第4回「八代演能会」が開催されました。八代妙見祭活性化協議会の主催で、八代妙見祭の2016ユネスコ無形文化遺産登録に向けた気運を高めようとい行われました。

能奉行の濱大八郎八代妙見祭活性化協議会副会長が「能はじめませ」と声をかけ、狂言「蚊相撲」と能「枕慈童」が始まりました。

狂言の大名役は和泉流野村萬斎さんで、能「枕慈童」の慈童役は、金春流櫻間家第21代当主櫻間右陣さん。笛や太鼓の調べと舞いの神々しさが会場を魅了しました。



保育園児の芋掘り体験



11月14日、YKK A P九州事業所独自寮敷地内で保育園児の芋掘り体験が行われ、市内15の保育園から約300人の園児が参加しました。

これは同事業所が子どもたちに芋掘りを楽しんでもらおうと招待したもので、12回目になります。

子どもたちはスコップを使ったり、芋のつるを引っ張ったりして芋を掘り出し、大きな芋を手にするとうれしそうに先生や友だちに見せていました。収穫後は重さを量り、園で一番重い芋を掘った園児に「大物賞」が送られました。

災害時の生活必需品供給に関する協定調印式



▲左から大洲産業の大洲代表取締役、中村市長、坂本食糧の坂本専務取締役、八代食糧事業協同組合の白石理事長

11月13日、市役所で市と市内の米卸業者3者との間で「災害発生時ににおける生活必需品供給に関する協定書」の調印が行われました。

これは地震や台風などの災害時に、市に米を優先供給するというものです。大洲産業、坂本食糧、八代食糧事業協同組合の3者が市場価格で白米を市に供給します。

市では災害時の食糧としてアルファ米を約1万3千食備蓄していますが、賞味期限が5年と短く、思うように備蓄量を増やせない現状です。今回の協定締結で備蓄食糧のみに頼ることなく食糧を供給できるようになります。

やつしろ緑のカーテンコンテスト表彰式



▲受賞者の皆さん

やつしろ緑のカーテンコンテストの表彰式が11月11日に市役所で行われ、受賞者6人が中村市長から賞状を授与されました。

これは夏の省エネ・節電対策と地球温暖化対策の1つとして、簡単に楽しみながらできる緑のカーテンの普及を目指して実施されたもので、今年で3回目です。今年は屋根を越える高さまで成長したものなど力作揃いで、17の応募作品の中から6つの入賞作品が選ばれました。

最優秀賞を受賞したのは坂本町の馬淵文夫さんで、壁一面の緑のカーテンの出来映えや堆肥に腐葉土などを活用した点などが評価されました。

※結果の詳細は市ホームページに掲載

優良PTA文部科学大臣表彰



▲左から酒井校長、中村市長、熊川会長、今田前会長

松高小学校PTAが平成26年度優良PTA文部科学大臣表彰を受け、熊川裕規(ゆきののり)昭前会長、酒井徹校長の3人が12月8日に市役所を訪問し、中村市長に報告をしました。

文部科学大臣がPTAの健全育成と発展を目的に、PTAの組織や運営、活動で優秀な実績を上げていく団体を表彰するものです。

今田前会長は「地域のお年寄りと一緒に活動している『松の芽つみ』や、登下校時に保護者が交替で児童を保護する『地域見守り隊』などを継続的に続けてきたことが評価されたのではないかと思います」と喜びを語りました。

せせらぎ水路に植栽



▲苗を植える卓球部の皆さん

11月27日、八代一中の野球部と卓球部の部員約40人と八代ロータリークラブのメンバー13人などが、一中の北側を流れる「せせらぎ水路」周辺の緑の回廊線で、花の苗植えをしました。

同クラブが社会奉仕活動の一環として、毎年行っており、今年で7年目になります。

花の苗はノースポールや金魚草、パンジー、ビオラの4種類で、5月まで花が楽しめるそうです。参加者は1600本の苗をポットからはずし、丁寧に植えていきました。

水やりなどの世話は、一中の生徒たちが行うことになっています。

教育プロレス



▲試合を通じ児童に思いを伝えるレスラーたち

痛みを感じ命の大切さを体感する「教育プロレス」が11月21日、八千把小学校体育館で行われ、4〜6年の児童や保護者ら約400人が参加しました。

これは、揚町のプロレス団体「求道軍」の代表でプロレスラーの幸村ケンシロウさんが平成21年から行っています。

レスラーが技の掛け合いを披露。痛みや衝撃以外にも、反則行為を通じてルールを守ることの大切さを伝えました。児童たちは悪役レスラーの反則行為にブーイング。幸村さんが劣勢を跳ね返して勝利を収めると歓声を上げました。